

令和 6 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

長久手市地域公共交通会議 (長久手市)

平成 2 0 年 1 1 月 2 5 日設置

令和 6 年 3 月 長久手市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和 6 年 4 月～令和 1 1 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

【長久手市の地域特性】

- ・市の中心を東西方向にリニモ、市西部を中心に名鉄バスが運行し、路線網の軸を形成。
- ・市営のコミュニティバス（Nーバス）が市内の移動を補完。
- ・名古屋市営バスや隣接市コミュニティバス、山の湊号が市内に乗り入れて運行。
- ・上記公共交通に加え、地域の移動資源（福祉有償運送等）も含めて、地域の移動網（地域交通ネットワーク）と捉える。

長久手市地域公共交通計画(2024年3月策定)

1) 期間: 2024年度～2028年度

2) 将来像

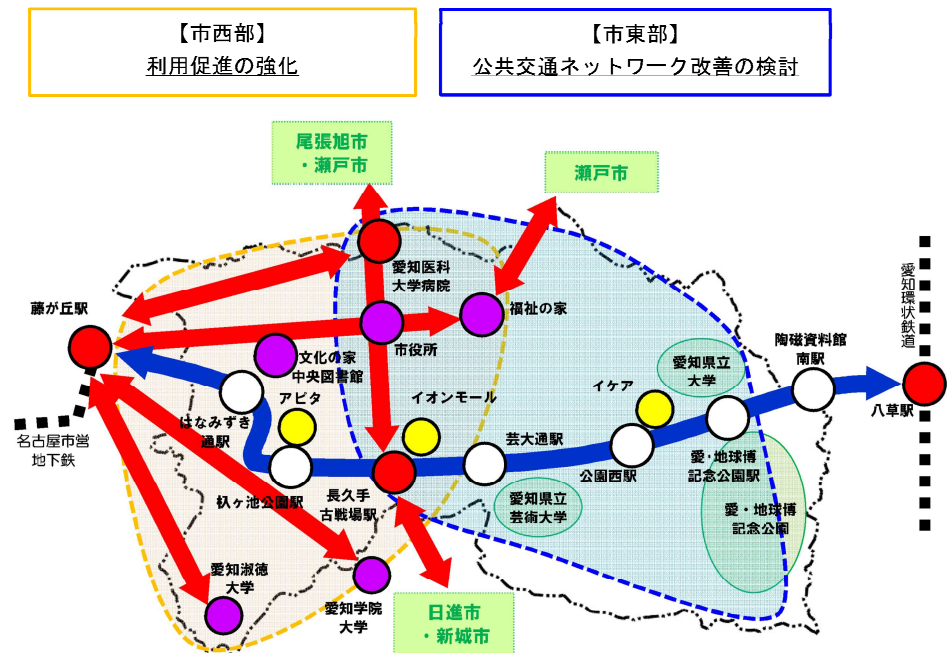
さまざまな交通手段が共生し、
つながりのある公共交通

3) 基本方針

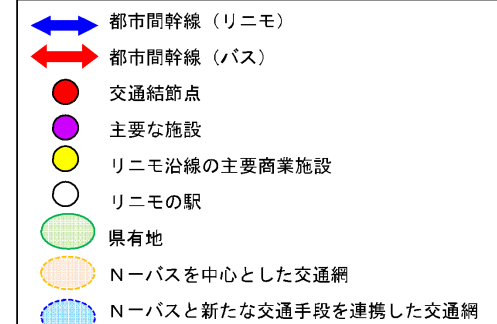
基本方針1: 地域共創による地域交通
ネットワークの確保・維持・改善
基本方針2: 公共交通の利用促進の充実

4) 目標

- ① 市内基幹交通(リニモ、名鉄バス)及び補助交通(Nーバス)の利用者数の増加
- ② 公共交通を便利にする取組の満足度向上
- ③ 公共交通利用を考える意識の向上
- ④ 利用促進に関する市の取組の拡大
- ⑤ バス運行に対する市民の認知度の向上



補助対象	Nーバス路線	運行範囲
●	中央線 (右回り・左回り)	市西部
●	西部線 (右回り・左回り)	市西部
	藤が丘線	市西部
	東部線	市東部
●	三ヶ峯線	市東部



実施事業	概要	実施結果	結果考察
Nーバスに関する取り組み	- Nーバスの利用実態把握のため、乗降調査を実施 - 環境負荷に配慮した持続的な交通手段の導入 - 計画事業における新たな移動手段導入の検討	- R 5 年度は 3 回（6月,11月,2月）、R 6 年度は 3 回（7月,11月,3月）に調査を実施（大同大学と共同研究） - R 6 年 4 月、既存の Nーバス車両 1 台を更新する形で小型電気（EV）バスの導入。 - R 6 年 1 0 月～1 1 月、市東部地域におけるデマンド型交通の実証実験の実施。	- 市役所から福祉の家間での利用が少ないことなど利用傾向が分かった。調査結果を Nーバスの路線見直しの際に活用する。 - 環境負荷の軽減につながっているとともに、市民から Nーバスが注目されるきっかけの一つとなった。 - R 6 年度、R 7 年度のデマンド実証実験結果を踏まえ、移動ニーズを分析する必要がある。

▼令和 6 年 4 月より導入のEVバス



▼デマンド実証実験における運行エリア



実施事業	概要	実施結果	結果考察
市民参加型の利用促進	市民で構成する「公共交通応援隊」による利用促進活動	- R 5 年 1 1 月に長久手楓まつりのステージでNーバスソングを披露。 - R 6 年 3 月に山の湊号や新城市のSバスに乗り、市内を観光する「山の湊号でラクラク！日帰り温泉バスツアー」を開催。 - R 6 年 4 月に市内公共交通の啓発のため、長久手公共交通かわら版「のりゃあせ」1 2 号を発行。市役所や市内公共施設で配布。	市内公共交通の利用者数は増加傾向にある。公共交通の利用促進のため、今後も当団体の活動支援を継続する。
その他の利用促進	市や近隣市町が主催となり行った利用促進活動	- R 6 年 2 月に尾三地区のバスが集まったイベント「バスフェスティバル」を実施。 - R 6 年 9 月よりNーバスの認知拡大・利用促進を目的に「のりものカード」を市役所窓口にて配布。	- 近隣市町のバスとのつながりを多くの方に知っていただく機会になった。 - Nーバスに対する市民意識向上のため取組を継続する。

▼「のりゃあせ」第12号



▼バスフェスティバル



▼N-バスの「のりものカード」



【長久手市地域公共交通計画の評価の考え方】

- ・公共交通計画で取組む事業の評価は、長久手市地域公共交通会議で審議。
- ・利用者数の経年変化は、交通事業者の実績報告で経年変化を把握
- ・市民アンケート調査で把握する評価指標については、次回の市民アンケート調査を令和9年度に予定しているため、今年度の評価は行わない。

【長久手市地域公共交通計画の評価指標と目標】

▼下記の公共交通利用者に関する指標は、毎年の利用実績により目標値の状況を把握できることから、直近5年間の利用実績の推移を比較し、R5年度実績を評価する。

※1年度を4月～3月として実績を算出

評価指標	目 標 (R5年度)	実績と達成状況					考 察
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
市内各公共交通の利用者数	●合計 ： 4,875,689 人/年	●合計 ： 5,124,010 人/年	●合計 ： 2,984,334 人/年	●合計 ： 3,795,341 人/年	●合計 ： 4,615,734 人/年	●合計 ： 5,231,898 人/年 (達成)	・新型コロナウイルス拡大の影響にともなう各公共交通の利用者数の減少は回復傾向にある。 ・リニモはジブリパーク開園の効果も大きく、コロナ以前のR1年度実績を上回る利用者数となっている。
	【参考】内訳 ・リニモ ： 4,005,000 人/年 ・名鉄バス ： 790,000 人/年 ・N－バス ： 147,968 人/年	・リニモ ： 4,061,000 人/年 ・名鉄バス ： 838,000 人/年 ・N－バス ： 225,010 人/年	・リニモ ： 2,335,000 人/年 ・名鉄バス ： 497,000 人/年 ・N－バス ： 152,334 人/年	・リニモ ： 3,050,000 人/年 ・名鉄バス ： 608,000 人/年 ・N－バス ： 137,341 人/年	・リニモ ： 3,755,000 人/年 ・名鉄バス ： 728,000 人/年 ・N－バス ： 132,734 人/年	・リニモ ： 4,304,000 人/年 ・名鉄バス ： 788,000 人/年 ・N－バス ： 139,898 人/年	

▼公共交通の利用者数以外の評価指標は以下の4種類となる。

※1年度を4月～3月として実績を算出

評価指標	目 標 (R10年度)	計画策定時 (R5.3月時点)	実績と達成状況 (R6.3月時点)	考 察
・利用促進に関する市の取組の拡大	・5種類	・2種類 (内訳) ・Nーバスカプセルトイ ・公共交通応援隊キッズイベント	・3種類 (内訳) ・公共交通応援隊イベント(新城市バスツアー) ・長久手楓まつりでのNーバスソング披露 ・尾三地区でのイベントへの参加(バスフェスティバル)	・公共交通応援隊等、市による周知・広報活動を継続するとともに、市内外の関係機関とも連携しながら引き続き利用促進施策を展開する。
・公共交通を便利にする取組の満足度向上(満足割合の増加)	・25%以上	・22.10% (R4市民アンケート調査結果)	—	・R9年度に評価
・公共交通利用を考える意識の向上(利用を考えた割合の減少)	・20%未満	・27.80% (R4市民アンケート調査結果)	—	・R9年度に評価
・各公共交通を利用しない理由で「バスがどのように走っているか分からない」という回答割合の減少	・名鉄バス：14%未満 ・Nーバス：17%未満	・名鉄バス：16.7%未満 ・Nーバス：19.5%未満 (R4市民アンケート調査結果)	—	・R9年度に評価

■【R6年度事業分生活交通確保維持改善計画(フィーダー系統)の評価】

路線名	フィーダー 系統	目標値・評価	R 4.10月～R 5.9月分実績	R 5.10月～R 6.9月分実績
中央線（右回り）	○	利用者数：24,480人/年 1便当たり：10.7人/便	利用者数：25,854人/年 1便当たり：11.3人/便	利用者数：26,987人/年 達成 1便当たり：11.8人/便 達成
中央線（左回り）	○	利用者数：21,760人/年 1便当たり：11.2人/便	利用者数：22,895人/年 1便当たり：11.9人/便	利用者数：24,161人/年 達成 1便当たり：12.5人/便 達成
西部線（右回り）	○	利用者数：21,930人/年 1便当たり：11.3人/便	利用者数：22,888人/年 1便当たり：11.9人/便	利用者数：24,710人/年 達成 1便当たり：12.8人/便 達成
西部線（左回り）	○	利用者数：23,260人/年 1便当たり：10.1人/便	利用者数：24,270人/年 1便当たり：10.6人/便	利用者数：24,747人/年 達成 1便当たり：10.8人/便 達成
三ヶ峯線	○	利用者数：18,950人/年 1便当たり：11.2人/便	利用者数：18,327人/年 1便当たり：10.9人/便	利用者数：15,364人/年 未達成 1便当たり：9.1人/便 未達成
【参考】 N－バス全路線		—	利用者数：138,718人/年	利用者数：140,411人/年
藤が丘線		—	利用者数：19,200人/年 1便あたり：10.6人/便	利用者数：18,889人/年 1便あたり：10.5人/便
東部線（右回り）		—	利用者数：2,306人/年 1便あたり：2.4人/便	利用者数：2,499人/年 1便あたり：2.6人/便
東部線（左回り）		—	利用者数：2,978人/年 1便あたり：2.7人/便	利用者数：3,054人/年 1便あたり：2.8人/便

<達成状況についての考察>

- 生活交通確保維持改善計画（令和6年度事業分）では65歳以上の運賃有償化及びコロナウイルスによる出控えの影響を考慮した目標値を設定した。
三ヶ峯線については通学に利用する小学生の児童数が減少したため、路線全体の利用者数が減少し、目標も未達成となった。他路線は利用者数の回復が進んでおり、目標値を達成した。

<対応方針>

- 利用促進に努めるとともに、地域に合ったN－バス路線の構築を目指して事業に取り組む。
- 移動ニーズの変化に適した市内公共交通の路線体系を構築するため、東部地域におけるデマンド交通の実証実験をR6年度・R7年度に行う（R6年は10月・11月の2か月間で実施済）。

計画目標の現在の到達点	今後の取り組み方針
市内公共交通（リニモ・名鉄バス・Nーバス）利用者は回復傾向にあるものの、名鉄バス、Nーバスについては計画目標値には達成できていない。	●各交通手段ともに昨年度よりも利用者数は増加していることから、公共交通利用の促進に関するイベントや広報活動等の取組を継続的に行い、市民の利用意識の向上や来訪者への周知を図る。 ●利用者数が減少傾向にある路線もあることから、路線見直しやデマンド型交通等新しい交通体系の導入検討により、地域・市民ニーズに適した運行体系へと見直しを図る。
利用促進に関する市の取組の拡大は計画策定時の2種類から3種類に増加した。	●今後も広報紙の発行等、市内外に向けて公共交通に関する情報発信を継続的に実施する。 ●関係機関（交通事業者、自治体等）や他分野（環境や観光、福祉等）とも連携した利用促進策を展開していく。 ●公共交通と地域の移動資源（福祉有償運送等）の情報を集約したマップの作成等による一体的な情報発信を検討する。
目標値（今年度評価なし） 市民アンケート調査による 公共交通を便利にする取組の満足度向上（満足割合の増加） 公共交通利用を考える意識の向上（利用を考えない割合の減少） 各公共交通を利用しない理由で「バスがどのように走っているかわからない」という回答割合の減少	●R4年度市民アンケートではNーバスの運行体系に係る不満が割合として大きいため、東部地域デマンド交通の実証実験の結果等から市民ニーズを分析を行う。 ●公共交通に関するイベント等取り組みを継続し、市民の公共交通への利用意識の醸成を図る。 ●全年代に向け、幅広く周知を図るため年齢層に応じた情報発信（電子媒体・紙媒体・テレビ）を行うことで幅広く周知を図る。

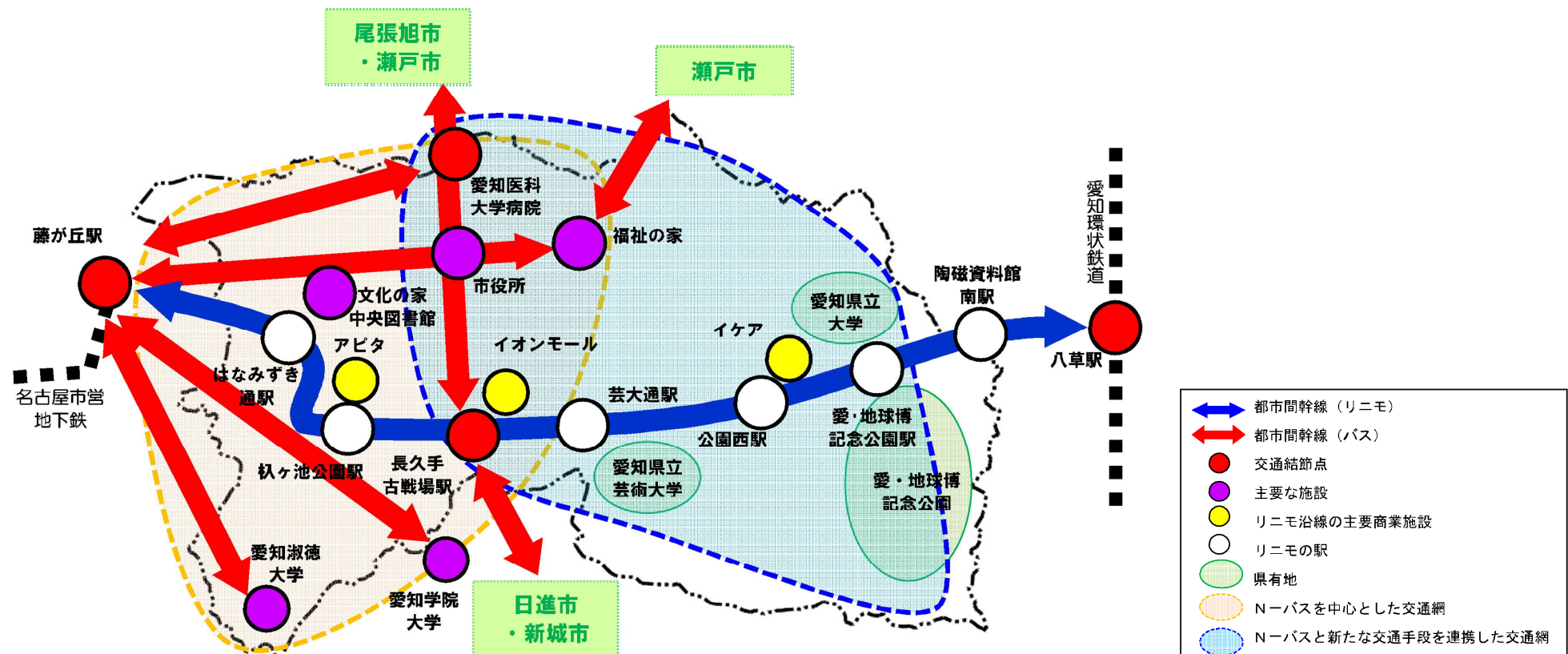
【地域公共交通計画（R6.4～）で定める基本方針実現のための取組の方向性】

●市西部：公共交通路線が充実しているため、既存交通手段の利用促進を強化

→公共交通に対する利用促進をはかるため、今後も周知活動の実施を継続するとともに交通に関わる新しい集客イベント等を検討。

●市東部：地域のニーズに沿った公共交通ネットワークの改善を検討

→市東部地域におけるデマンド型交通実証実験をR6年度、R7年度に実施し、地域ニーズに合った交通体系を検討中。



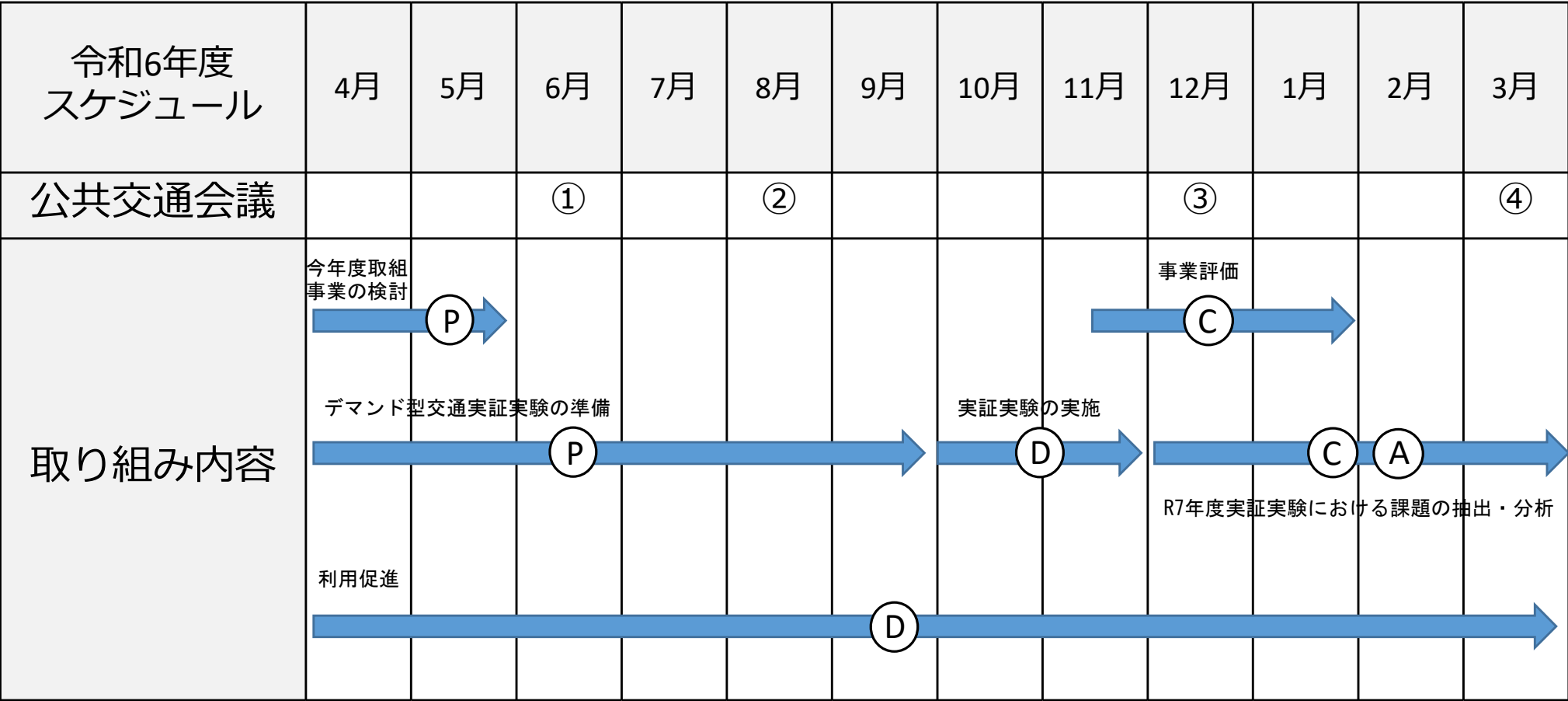
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和5年度評価文	地域公共交通計画で実施予定のN－バス路線見直しについて、市民アンケートやワークショップの結果を踏まえ、地域特性に合った運行体系が検討されることへの期待	アンケート・ワークショップの分析結果から得られた公共交通への課題を基に、長久手市地域公共交通計画（R6年4月）における市の基本方針や取り組みを策定した	移動ニーズの変化に適した市内公共交通の路線体系を構築するため、東部地域におけるデマンド交通の実証実験をR6年度、R7年度に実施。結果を分析し、地域に適した路線網の見直しを図るための取組を進める
	地域間幹線系統とN－バスの乗り継ぎについて、乗り継ぎ場所の整備や情報発信が行われることへの期待	公共交通計画における計画事業の1つとして乗り継ぎ利便性の向上を定めており、ソフト（割引、ダイヤ調整）・ハード（待合施設、案内板の設置）双方からの取組を図る	今後もバスマップや広報活動を通じた情報発信を行うほか、各交通事業者と協力し、地域公共交通再構築事業の活用も視野に入れながら整備の検討を図る

※前回：令和6年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
令和4年度評価文	N－バス利用者への継続した情報提供とともに、アンケート結果の分析から移動の変化の実態等の把握を進め、利用者にとってより良い公共交通になることを期待	アンケートの分析結果から得られた課題を参考とし、長久手市地域公共交通計画（計画期間：R6年度～R10年度）における基本方針や計画事業を定めた	移動ニーズの変化や公共交通利用の課題点を計画に反映し、課題解決に向けた取り組みに着手する
	地域間幹線系統である愛知医科大学病院線について、関係者が連携して、新たな利用者獲得に向けた利用促進等を行うことの期待	地域公共交通計画の中で、N－バスとの路線重複について課題として記載した。	名鉄バスとの協議も進め、各役割を意識しながら、N－バスの路線見直しの際に検討する。今後とも関係者と連携しながら、利用促進を進める。
	地域公共交通策定に際して、地域間幹線とそれに接続する支線に対する役割分担を整理し、各路線の補完、充実を意識した計画検討を期待	長久手市地域公共交通計画では市内交通手段の役割を整理し、公共交通体系を確保する方針を示した。	計画で整理した各交通手段の役割分担を意識し、N－バスの路線見直しを行う。

※前々回：令和5年3月10日

【長久手市地域公共交通計画における評価スケジュールに基づいた令和6年度分事業の抜粋及びPDCAサイクルのイメージに基づく評価】



【地域公共交通会議の実施状況】

- 第64回会議 令和5年12月19日 主な議題: 長久手市地域公共交通計画の素案(全文版)・令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価についての協議
- 第65回会議 令和6年3月11日 主な議題: 長久手市地域公共交通計画(案)・デマンド型交通実証実験についての協議
- 第66回会議 令和6年6月11日 主な議題: 地域公共交通確保維持改善事業の協議・デマンド型交通証実験についての協議
- 第67回会議 令和6年8月28日 主な議題: 市東部地域におけるデマンド型交通実証実験についての協議